

	<h1>れんごう下越</h1>	<p>第 137 号 2017.9.1 発行人 福井 正史 1部5円 購読料は会費に 含 <b>En la union Esta la fueraza</b> <b>団結こそ力</b></p>
<p>日本労働組合総連合会新潟県連合会・下越地域協議会 957-0054 新発田市本町 1-1-6 総合生協会館内 TEL0254-26-3705 FAX0254-26-0556</p>		

## 2017 しばた平和のつどい

～戦争のない核兵器のない平和な世界の実現をめざして～



感想・意見交換

連合は平和運動として、核兵器廃絶による世界の恒久平和の実現と、被爆者支援の強化をはじめ、在日米軍基地の整理・縮小、日米地位協定の抜本の見直しに向けた運動、北方領土の早期返還と日ロ平和条約の締結をめざす運動などに取り組んでいます。そのため、6月～9月を平和行動月間として、[1] 6月沖縄 [2] 8月広島・長崎 [3] 9月根室での平和行動を基本に、中央・地方の取り組みを進めています。

連合下越地協では、毎年、新発田市で開催される「しばた平和のつどい」に共催し、11年が経過しています。新発田市は世界のすべての国が核兵器を速やかに廃絶し、平和な国際社会を築くことを強く求めて、平成9年に「核兵器廃絶平和都市」を宣言し、平和運動の周知、推進を進めています。今年は、8月19日(土)アイネス新発田で開催されました。



ふれあいコンサート

第1部では広島記念式典参加者による感想と意見交換では新発田市内の10校の中学生代表者が素直に広島平和記念式典に出席して感じたことをスライド写真で振り返りながら、エフエムしばたの吉田アナウンサーの進行で意見交換を行いました。式典に出席する前と出席後の自分が平和に対して気持ちの変化を語りました。被爆72周年を迎えた広島市は原爆死没者への追悼とともに核兵器廃絶と世界恒久平和の実現を願って平和記念式典を行い、核兵器のない平和な世界の実現に向けた願いを込めて次世代に語り続けて行きたいと中学生は感じたそうです。第2部の朗読ふれあいコンサートでは「ら・ぼーる」の演奏で、出会い・ふれあいをテーマに、参加者の気持ちがひとつになり、最後に「ふるさと」を全員で歌いました。

胎内市長選挙・投票日は9月17日

連合新潟は、三宅政一氏を「推薦」



三宅 まさいち

無所属 新人

三宅 政一 (みやけ まさいち) プロフィール

生年月日：昭和29年2月12日 (63歳)

学 歴：県立興農館高等学校 (昭和47年3月卒)

職 歴：中条町役場入職 (昭和47年4月)

胎内市農林水産課長 (平成18年4月)

胎内市総務課長 (平成23年4月)

胎内市副市長 (平成25年10月)

胎内市副市長退任 (平成29年7月)



連合新潟「平和行動 in 長崎」に参加して  
青年女性委員会委員長 遠藤 登志夫

長崎へ原爆犠牲者慰霊と平和祈念を目的として訪れたのは初めてだった。特に、印象に残ったことは2つある。一つ目は平和祈念式典における長崎市長の長崎平和宣言である。「最も怖いのは無関心なこと、そして忘れていくことです。」「『被爆者がいる時代』の終わりが近づいています。」同じことを二度と起こさないためにも我々若者が惨状を知り、伝え続けていくことの必要性を改めて認識した言葉だった。被爆者、さらには式典の遺族席に座る方までもが高齢化しており、いつか被爆者がいなくなったとき、語り継ぐバトンを受け取るためにもまずは関心を持ち続けることが必要であると感じた。二つ目はピースウォークや原爆資料館で目にした数々の原爆遺構である。水飴のように曲がりくねった鉄骨、バラバラに崩れたレンガ壁など、熱線と爆風の凄まじい威力を物語っており、人間などひとたまりもないことがよくわかる。資料館にはいろいろな国の方が訪れていて、世界中から注目されていることを実感した。原爆投下から72年が経過した今でも世界中で核兵器開発が止まらないが、現時点で長崎が最後の被爆地であることも事実である。新たな被爆地をつくらぬよう、今後も関心を持ち続け、惨状を伝えていきたい。



連合村上支部 瀬波温泉海岸清掃



村上支部では、地域貢献と加盟単組の親睦を兼ね、例年9月に行っていたクリーンウォークを参加者からの提案により、今年は海水浴シーズン中の7月29日朝7時から瀬波温泉海水浴場で清掃を行うこととしました。前日の雨で開催が危ぶまれましたが、当日は心配された雨もなく子供を含む参加者50名全員で海岸清掃を行うことができ、瀬波の浜に来てくださる皆さんが、少しでも喜んでくれることを期待しています。